

福井県医師会

だより

第611号 平成24年(2012)5月



表紙写真説明：龍双ヶ滝

福井市 吉村 信

池田町の部子川の上流にある龍双ヶ滝は、福井県で唯一、日本の滝100選に選ばれている秀麗な滝である。高さ60mから扇状に降り注ぐ清冽な水は迫力満点で、高原の清澄な空気を冷やし、辺りに一種の靈気をすら漂わせている。

若葉越し 龍双ヶ滝 水煙

醫 縫 録

量より質、の地域医療

福井大学医学部第二内科教授
消化器内科長・光学医療診療部長

中 本 安 成



2011年1月1日に福井大学に着任してから早1年が過ぎました。この間に地域の先生方から幾度となくお聞かせいただいたことが、医師不足、というテーマです。

さて、福井県における医師の不足はどのくらい深刻なものであり、その解決策にはどのようなものが考えられますでしょうか。いま地域を支えていらっしゃる先生方がもう少しお若かりし頃、あるいはご幼少の時期を振り返っていただきたいと思います。その頃の福井県そして嶺南地域は、現在と比べますとはるかに医師数の少ない状況にあったのではないかと思います。最近の統計では、人口あたりの救急病院・療養所数や特別養護老人ホーム整備率が日本一といわれるまでに医療環境の整備が進んできております。しかし、福井県における医師不足の声は依然として高まるばかりです。そして、医師の育成機関である大学にこのようなご要望が押し寄せてきております。

医師不足を解決するためのひとつの対策は、もちろん医師数そして医療機関を増やすことに他なりません。ただ福井県につきましては、我が国全体を見渡しましても決して医療事情が最悪ということではなく、むしろ統計的には恵まれているほうかもしれません。そういたしますと、医師が不足しているという感覚をもつ背景には別の要因も考えざるを得ないのではないかと感じております。それは福井県に限ったことではございませんが、医療レベルが不足していることを、医師の数が不足していると錯覚されているのかもしれない。あるスタンダードに達していない医師がひとつの地域、医療機関に何人集まっても、患者さんが求める医療を施すことは難しく、医師数不足のせいであるとして片付けられております。

つまり、医療レベルに焦点を絞って考えてみますと、患者さんが求める基準に達していない医師を大学から地域に送り出しても本当に医師不足を解決することにはなりません。中長期的な展望に立って

福井県の将来を考えておられる先生方と一緒に、一定水準の経験と技能を備えた医師を育成することが近道ではないかと考えております。内科の場合、現状のスーパーローテート研修制度の影響もあり、地域での中核的な立場で医療をリードできるような、いわゆる一人前の内科医になるまでに卒後15年ほどの歳月が必要と思われます。いまは大学や連携する医療機関において研鑽を積んでいる若手医師のひとりでも多くが、このような経験を積んで十分な技能を身につけてほしいと願っております。そのためには、これまで以上にベクトルを同じ方向に向けて、一枚岩となって診療や教育を行っていく地域と大学のネットワークが必要であろうと思われます。実際にこの連携ネットワークが円滑に運用されるためには、多くの話し合いが必要でしょう。さらに、その中で先生方と大学の間における診療と教育に関わる役割分担が明確になってくるのではないかと感じております。

日銀が銀行の銀行であるように、大学は病院の病院であろうと考えております。つまり、ひとつの地域ネットワークのなかで、大学は医師の人事や最新の医療を提供することによってバランスとして各医療機関を連結できる唯一の存在です。折に触れて若い教室員の地域医療に対する考えを伺っていますが、みな熱意が漲っていて燃えております。この活気をまっすぐに伸ばせるような教室運営をめざして、地域の中核となれる医師を輩出できる環境の整備に努めて参りたいと存じております。

最後になりましたが、福井県の将来に関する先生方のアドバイスを今後の教室運営、地域貢献になるべく多く盛り込んで行きたいと存じておりますので、何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。